

コシヒカリ栽培暦（移植・会津地域/両沼地方限定）

○栽培地帯: 会津の平坦地域(標高300m以下)

福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 令和7年3月

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬		
生育	<< 作業日の目安 >> 作柄判定ほ(H17~R6)の平均→																					
	移植期						分けつ期						幼穂形成期			減数分裂期			出穂期			成熟期
	5/16頃												8/8頃			9/23頃						

主な作業

塩水選 浸種 催芽

播種

育苗管理

田植え

耕起

代かき

除草剤散布

土壌改良剤 基肥施用

箱施肥散布 (殺虫・殺菌剤)

穂もち防除

カメムシ防除

穂肥

7/20~25頃 (出穂10日~15日前)

収穫 乾燥 調製

稲わら すき込み

【品種の特徴】

- ・早晩性: 中生の晩
- ・倒伏しやすい
- ・いもち病に弱い
- ・良質、良食味
- ・耐冷性強(新基準)

<<水管理>>

栽培上の要点

○土づくり

- ・堆肥や土壌改良資材の施用を励行する。その他については土壌分析結果に基づき不足する養分を補給する。
- ・稲わらはすき込み地力の維持・向上に努める。秋の早い時期のすき込みは土壌還元対策にも有効である。

○種子予措

- ・塩水選(比重 1.13)を行う。(ただし、比重選別機による選別済みの消毒済み種子は不要)
- ・未消毒種子は、必ず薬剤や温湯で消毒する。

○移植

- ・栽植密度は畦間 30cm × 株間 18~22cm(坪 50~60 株)とする。
- ・風のない暖かい日に移植する。活着したら浅水管理とし、有効茎の確保に努める。
- 田植え適期: 5月中旬~下旬

○病害虫・雑草防除

- ・「福島県農作物病害虫防除指針」に基づき防除する。

☆施肥体系 食味向上のための施肥管理

①慣行栽培(10a 当たり成分量)
 基肥 窒素4kg リン酸8kg カリ8kg
 穂肥 窒素1~2kg
 (ほ場の地力に応じて、基肥窒素量を 80~100%の範囲を目安に調整する)

②穂肥は減数分裂期(出穂前 10~15 日頃)に施用する。

③実肥(出穂以降の追肥)は食味低下の原因となるので行わない。
 ただし、著しく褪色し栄養凋落(秋落ち)が懸念される場合は、葉色低下を抑えるための追肥が必要である。(補足)

- ・側条施肥は基肥窒素量の 10~20%程度を減肥する。
- ・一発肥料等の緩効性肥料を施用する場合は、慣行窒素施用全量の 10~20%程度を減肥する。

○中干し

- ・目標茎数を確保したら落水し、土壌表面に小ヒビが入り足跡がつく程度に干す。

○低温時の対策

- ・幼穂形成期以降に低温が予想される場合は、速やかに深水管理し幼穂の保温に努める。

○夏季高温時の対策

- ・高温時は、「飽水管理」や「昼間湛水、夜間落水」といった水管理を行う。

○斑点米カメムシ等の防除

- ・畦畔の草刈り
- 出穂 10 日前までに実施し出穂後は行わない。

<農業による防除の例>

- ・粉剤・液剤(散布剤)による防除
 1回目: 出穂期の7~10日後
 2回目: その7日後に散布
- ・粒剤による防除
 穂揃期~出穂期10日後頃に湛水状態で散布する。その後も発生が多い場合は、散布剤により追加防除を行う。

○刈取適期

- ・刈取り始めの判断は籾の黄化率を必ず確認。黄化率85%以上を目安とする。
- ・刈取時期の積算気温...1000~1200℃
- ・8月以降に高温が続いた場合、目標の積算気温に達する日が早まるため、刈り遅れに注意する。

○乾燥・調製

- ・急激な乾燥や過乾燥、高水分籾での乾燥などを避ける。
- ・選別機の網目は 1.9mm で調製する。

☆生育指標

時期	項目	指標値
幼穂形成始期	茎数(本/㎡)	650~750
	葉色(SPAD502 値)	36~39
	草丈(cm)	70cm以下
成熟期・収穫期	収量(kg/10a)	600~660
	登熟歩合(%)	85~
	穂数(本/㎡)	400~450
	籾数(万粒/㎡)	3.2~3.4